

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104720
法人名	有限会社 ノリテック
事業所名	グループホーム ひがし野
所在地	松山市畑寺町丙68-1
自己評価作成日	平成23年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者本位を第一に、利用者主体になるよう職員一同取り組んでいる。
 ・外出・外食、季節の行事などイベントを多くとり入れている。幼稚園や小学校、中学校の訪問も多い。
 ・また年一回バス旅行を行い、家族も共に参加出来るようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念である「誠心誠意」が職員一人ひとりに浸透し、日々の支援の中にも活かされている。職員は利用者を人生の先輩として敬う気持ちを持ち、一人ひとりと向き合い日々の支援に取り組んでいる。利用者と職員は積極的に地域の行事や催し物に出かけている。今年度、同法人のデイサービスに隣接して、駄菓子屋“蛸”をオープンさせ、利用者と職員と一緒に値札をつけたり、店番をして買い物に来る子どもや若いお母さん達とも触れ合い、役割を持ちながら地域交流を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームひがし野
(ユニット名)	なのはな
記入者(管理者)	
氏名	河村 健太
評価完了日	23 年 1月 7日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎朝の朝礼で理念を斉唱している。また詰所に理念を掲げ、業務においても理念を基に実践できるように心掛けている。</p> <p>(外部評価) 管理者や職員は朝礼で理念を唱和している。また「今日の心がけ」をテーマにした短いエッセイを読み意見を述べるなど、自己啓発に努めている。「誠心誠意」を理念とし、利用者を人生の先輩として敬い、真心のこもった支援の積み重ねができるよう日々取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 紙芝居等のレクを地域を巻き込み全体での交流を図っている。そういったレクを定期的に行う事で地域との交流の機会も増える。</p> <p>(外部評価) 開設当初から地域にある神社の掃除など、継続して積極的に関わる事で地域との交流が増えている。学校の授業の一環として、利用者が先生として招かれるなど、行事などで協力し合う関係が築けている。地域の協力を得て徘徊模擬訓練を行い利用者を見守る体制を構築している。</p>	地域の一員として利用者も一緒に役割を担うなど、良好な関係を築くことができているので、事業所と地域が支え合う関係を今後も継続、発展するような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議で地域の方々に認知症に関する理解を深めてもらったり、徘徊模擬訓練を行い利用者が施設を出て不明になった場合を想定して地域の方にも協力して頂き発見に努める訓練を実施した。また認知症の人形劇を地域の方に披露し、認知症の理解に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を活かし地域全体や身の回りの方に対する理解を深める事が出来る。地域全体を活かした徘徊模擬訓練を行っている。	
			(外部評価) 2か月毎に開催し利用者や家族、町内会や老人会の代表者、民生委員、市や地域包括支援センター職員などが参加し、議題に沿って活発な意見交換が行われている。外部評価の結果を参加者と共に話し合い、意見や要望をサービス向上のために活かすよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議へ招くなどし、GHでの様々な活動や取組みを伝えながら、コミュニケーションを図っている。	
			(外部評価) 市の担当者は運営推進会議に毎回出席し、意見交換や情報提供をしてくれる。事業所からも市に出向いたり、電話等で連絡や連携を密に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) カンファレンス等で取り上げ、理念に基づいた対応を心掛けている。 玄関の施錠については防犯面から閉めているが、いつでも利用者の方が出られるようにしている。	
			(外部評価) 事業所の方針は、緊急やむを得ない場合を除き行わない事としている。職員は研修や勉強会で身体拘束について学び良く理解している。常に問題意識を持ち、職員全員で話し合っって日々の支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 各研修に参加して学ぶ機会を得ると共に、研修参加者がカンファレンス等を通じて他のスタッフが情報を共有できるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 各研修に参加して学ぶ機会を得ている。またその研修をカンファレンス等で職員に共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の立場に立った契約に関する説明をし、不安点や疑問点の解消に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月末にはADL報告として家族に連絡を取り、また運営推進会議によって外部者への情報提供を行っている。また家族会を年2回開きサービス内容の報告も行っている。	
			(外部評価) 毎月家族に送る便りは、普段の暮らしが良く分かる紙面となっている。毎月末には電話で状況報告を行っており、直接話す事で意見や要望を聞くことができる。年2回開かれる家族会では、家族だけで話し合う時間を設け、意見や要望を運営に反映させるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月2回のカンファレンスや運営推進会議等で職員同士が話し合いをしたり意見を述べたりして運営に反映している。他にも意見、申し送りノート等も設置している。 (外部評価) 代表者は、職員が楽しく仕事ができる環境が利用者にとって居心地良い環境づくりに繋がると考えている。職員は代表者や管理者に、いつでも意見や提案を言える関係が築けており、個別面談の機会もある。職員の親睦を兼ね慰安旅行が毎年実施されるなど、福利厚生も充実している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎年個人面談がある。スタッフの目標や待遇面など代表者と話し合う機会を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 認知症に関する研修やレクリエーション等の研修を行っている。一人一人職員に応じて法人外の研修を行い知識や考え方等の向上を図る。カンファレンスにおいても外部講師を呼び職員全員で考える機会もある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) GH間の相互研修に参加、相互訪問を行い改善点を見つけたりサービスの向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に得た情報を職員全員で共有してケアにあたるように努めている。 初期の様子には特に注意し、訴えや気づき等カンファレンスで検討を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には施設の方針を説明し、本人及び家族の意向や生活暦など、双方の不安や疑問点など十分に話し合い良い関係を築いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の意や要望を十分理解し必要なサービスを見極め、デイの利用をはじめ、よりニーズに即した対応が可能である。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事の下ごしらえや、掃除の方法などを教えてもらったり、準備を一緒に行ったりしながら生活の主体になってもらえるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時や毎月の報告などでコミュニケーションを図り本人の今の状況と課題を共有している。また家族の意見を聞き相談しながら共に本人を支えられるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 若い頃過ごしたと思われる場所への外出や買物などの機会を設けたりしている。 また友人や知人の面会も受け入れている。 (外部評価) 利用者にとって何が大切かを職員全員が理解しており、馴染みの人や場所を大切にしている。入居後の年数も長くなっている利用者も多く、事業所で築いた関係も継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係に気を配っている。 入居者同士がトラブルになりそうな時は必ず職員が間に入り話を聞くようにしている。 レクや手伝いに楽しく参加出来るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後でもいつでも来所できるように声掛けを行っている。施設に移った場合では電話や訪問などで経過の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一対一で話をする時間を作り、様々な思いや希望を聞き取っている。上手く伝えられない場合は家族に聞いたり、スタッフ同士で気づきを共有し検討している。 (外部評価) 職員は、利用者の思いや意向を一人ひとりと向き合いながら把握するよう努めている。気づきや新しい発見は記録し、申し送りやカンファレンスで話し合いを行い、職員全員で共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人一人のアセスメントを行い、今まで使っていた家具等を居室に設置することで環境の変化を出来るだけ少なくするように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル測定や排泄及び入浴において、身体の変化、心身状態の把握に努めている。 また利用者一人一人の参加出来ることを把握しスタッフや他の利用者と一緒に実施するように心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にカンファレンス等でスタッフや家族との話し合いで意見を出し合い、常に本人の状況の変化を感じ取る事で、その都度介護計画を見直している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりに担当職員が決まっているが、気づきや情報は、記録やカンファレンス等で職員全員が共有し話し合っており、介護計画に活かしている。利用者や家族の意向は日々の関わりの中から把握している。計画の見直しは定期的に行うが、状態の変化に合わせてその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録には気づいた事や変化等、その都度記入し、カンファレンスや申し送り等で情報を共有・相談している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ケアマネと相談しながら、ニーズに応じた対応が出来る様に努めている。 併設するデイと交流を図り、立地等の特性を活かし流動的なサービスが提供出来る様に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内行事への参加や買物など、本人の状況に応じた社会参加が出来る様に支援している。 外食・外出も月に各1回は行い、楽しく過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人、家族の同意の下に協力病院の往診を受けてい る。 かかりつけ医への受診もスタッフや家族の同行で継続 できる体制をとっている。</p> <p>(外部評価) 入居前からのかかりつけ医や、事業所の協力医など希 望に応じて、自由に受診することができる。受診に関 しては家族の協力を得たり、職員が対応するなどして 適切な医療が受けれるようにしている。週1回、協力 医の往診があり、24時間体制で連携が取れるようにな っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日常の気づきは直ぐに職場内の看護職員に伝えて相談 し、必要であれば医療機関に受診するようにしてい る。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院先の病院と密に連絡をとり、早期退院に向けた相 談をし、可能な限り再入居に向けた努力をしている。 また入院中はお見舞いを定期的に行い、情報の共有に 努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時及び実際に必要となった場合の両方で話し合い の場を持ち、重度化や終末期の対応について方針を確 認し合っている。 必要に応じて提携している医療機関にも同席してもら い専門的立場からの意見も参考にとり入れている。</p> <p>(外部評価) 現在まで看取りの経験はないが、事業所として看取り を行う方針である。医療機関と24時間体制で連携 し、看取りに関する指針も整備している。更に職員に は協力医療機関から医者を講師として招き、勉強会を 開く等している。</p>	<p>重度化や看取りに関して、事業所の体制の確立や職員 のレベルアップに取り組んでいるが、現時点での達成 度などを見極め、より具体的に取り組む事を期待した い。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 地元地域で実施している救命訓練に職員が参加し、人工呼吸法やAEDの使用法等を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に一度消防署の指導の下で避難訓練を実施している。定期的に特にスタッフが少なくなる夜間を想定した避難、初期消火、通報等の訓練を実施している。 (外部評価) 避難訓練は、消防署の立会いで様々な想定をしながら行われている。また、地域で行われる訓練にも参加している。運営推進会議でも議題に上げ訓練の報告や地域に協力要請したり、助言をもらい次に繋げている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の方々の尊厳と権利を守る為、プライバシーの確保をしていく事を職員全員が徹底しています。職員一人一人が気をつけている。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重しながら日々のケアに取り組んでいる。言葉使いや声の大きさ、タイミングなど細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) お茶の時間、飲みたいものを聞いて飲んでもらったり、入浴の時間、更衣時に着たい洋服を選んでもらったりと個々に合わせた対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人その人のケアプランを中心に日々のケアを行うが、その度に訴えがあれば、要望や訴えを優先しケアを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服を選んでもらったり、アクセサリーを付けたり女性であれば化粧をしたりと本人の希望を取り入れながら、その時々に合わせて更衣、整容し、その人らしい身だしなみが出来る様に努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を考える時、何が食べたいかを聞き、可能な限り希望に添える様に努めている。 また大勢で一緒に楽しく美味しく、食事が摂れる様に支援している。 (外部評価) 毎日の食材の買い物や調理、配膳、下膳等、利用者のできる範囲で職員と一緒にやっている。利用者の好みや食べたい物を聞き、献立に取り入れるようにしている。職員も一緒に食べながら会話を楽しんでいる。月1回外食の日を設けたり、季節や行事に合わせて趣きを変えて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の献立は入居者の好みなど聞きながら、バランスの取れたものになるようにしている。 一日の食事量、水分量をチェックし摂取量を把握するようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは毎食後の声掛けにて定着しており、出来にくい部分は職員が介助を行っている。 また夜間は義歯をはずして洗浄し、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握する為に記録を行っている。その記録より、排泄の誘導、声掛けの支援を行っている。また排便の間隔が長い利用者には、個々に食べ物、下剤を使用し排便を促している。	
			(外部評価) 職員は利用者の排泄状況を記録し把握に努めている。時間や表情等で察知し、さりげなく声かけしトイレ誘導を行っている。便秘傾向にある利用者には食事などを工夫し、自然にトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 牛乳やヤクルト、繊維の多い食品など摂取するように心掛け、体操や散歩など全身運動を取り入れ、自然排便の促進に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴したい方や入浴する時間帯など希望を聞いて入浴している。入浴時には、昔の話や、家族の話などしてコミュニケーションを取りながらリラックス出来る様にしている。	
			(外部評価) 入浴する日や時間、回数は利用者の希望や体調に応じて柔軟に対応している。入浴時は利用者と1対1でじっくり向き合う事ができるため、利用者の思いが聞けたり、新しい発見があるので職員はゆったりリラックスできるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はリビングで皆とレクをしたり、テレビ、外出、散歩などで適度に体を動かし、良く眠れるようにしている。また疲れた時には、いつでも休める様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は職員が行い、日付、氏名、内服時間をチェックし利用者と共に確認を行い服薬している。また個人の記録ケースには、何の薬が処方されているか職員がすぐ分かるようになっており、症状の変化に対応出来る様にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 朝の掃除では、それぞれが自分の役割となっている事を自発的、あるいは声掛けにて行っている。生活暦を考慮した楽しみや気分転換を図れる様に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買物に利用者を誘い、一緒に出かけている。その他に月1回の外出や外食を設け、色々な場所に出かけている。また年1回バス旅行で観光地などにも出かけている。	
			(外部評価) 事業所として特に外出に力を入れており、毎日の食材等の買い物や、外食など日々取り組んでいる。年1回のバス旅行は、家族も利用者と一緒に参加してもらうようにしており恒例行事となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 毎日の買物の時に必要な日用品や嗜好品など、一緒に行って選んでもらい購入できるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の家族等に特に事情がない限りは、本人の希望があれば自由に電話等にて連絡が取れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには、季節、行事ごとの飾り付けをしたり、花や人形などを置き和やかな雰囲気作りを心掛けている。日差しがまぶしい時にはカーテンをしたり、床暖房、エアコンなどで室内の気温にも気を配っている。	
			(外部評価) 共用スペースには季節の飾りや花、利用者の製作した作品等が飾られ、温かさや季節感が感じられる。利用者はリビングで過ごす時間が多く、事業所で飼っている犬と共にゆったりと思いいに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 楽しそうに会話をしている方は、そのまま見守ったり、一人で退屈そうにしている方には、レクや買物に誘ったり、一人になりたい方には自室に誘導するなど、本人の気持ちを考慮したケアを心掛けている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 昔から自宅で使っていた家具を使用したり、可能な限り本人が住みやすい環境になるように相談をしている。	
			(外部評価) 家族の協力を得て、使い慣れた家具や調度品を持ち込んだり、写真や作品を飾ったりと利用者が居心地良く過ごせるよう配慮がされた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者の方々が自由に生活出来る様に室内空間となっている。また台所、リビングダイニングは見渡せる様、仕切りが無く、自由に行き来ができ広々とした生活空間に配慮した設計となっている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104720
法人名	有限会社 ノリテック
事業所名	グループホーム ひがし野
所在地	松山市畑寺町丙68-1
自己評価作成日	平成23年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者本位を第一に、利用者主体になるよう職員一同取り組んでいる。
 ・外出・外食、季節の行事などイベントを多くとり入れている。幼稚園や小学校、中学校の訪問も多い。
 ・また年一回バス旅行を行い、家族も共に参加出来るようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念である「誠心誠意」が職員一人ひとりに浸透し、日々の支援の中にも活かされている。職員は利用者を人生の先輩として敬う気持ちを持ち、一人ひとりと向き合い日々の支援に取り組んでいる。利用者と職員は積極的に地域の行事や催し物に出かけている。今年度、同法人のデイサービスに隣接して、駄菓子屋“蛭”をオープンさせ、利用者と職員と一緒に値札をつけたり、店番をして買い物に来る子どもや若いお母さん達とも触れ合い、役割を持ちながら地域交流を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ひがし野

(ユニット名) こすもす

記入者(管理者)

氏名 河村 健太

評価完了日 23 年 1 月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎日、職員と管理者は理念斉唱を行い、日々の業務が理念の基行われるように努力している。また常に意識できるように話し合いが出来ている。</p> <p>(外部評価) 管理者や職員は朝礼で理念を唱和している。また「今日の心がけ」をテーマにした短いエッセイを読み意見を述べるなど、自己啓発に努めている。「誠心誠意」を理念とし、利用者を人生の先輩として敬い、真心のこもった支援の積み重ねができるよう日々取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議以外でも地域の行事に職員、利用者共に参加したり施設行事に参加して日常的に交流が図れている。</p> <p>(外部評価) 開設当初から地域にある神社の掃除など、継続して積極的に関わる事で地域との交流が増えている。学校の授業の一環として、利用者が先生として招かれるなど、行事などで協力し合う関係が築けている。地域の協力を得て徘徊模擬訓練を行い利用者を見守る体制を構築している。</p>	地域の一員として利用者も一緒に役割を担うなど、良好な関係を築くことができているので、事業所と地域が支え合う関係を今後も継続、発展するような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 徘徊模擬訓練や認知症サポーター講座を地域の方にも発信しながら理解や協力を頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 家族の意見や地域の方の考え方等も十分に聞くことが出来ていると思う。またその意見を運営、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 2か月毎に開催し利用者や家族、町内会や老人会の代表者、民生委員、市や地域包括支援センター職員などが参加し、議題に沿って活発な意見交換が行われている。外部評価の結果を参加者と共に話し合い、意見や要望をサービス向上のために活かすよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への出席で実情を話し合ったり、市の状況を教えてもらう事で情報交換ができています。	
			(外部評価) 市の担当者は運営推進会議に毎回出席し、意見交換や情報提供をしてくれる。事業所からも市に出向いたり、電話等で連絡や連携を密に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフへの徹底のために話し合いや勉強会の場を持ち取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所の方針は、緊急やむを得ない場合を除き行わない事としている。職員は研修や勉強会で身体拘束について学び良く理解している。常に問題意識を持ち、職員全員で話し合っ日々支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待だけではなく、スピーチロックやドラッグロックなど、カンファレンスや講習を通して学んでいる。 また職員は理念に基づきケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修をうけ理解したうえで、利用者や家族等に周知できるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族等が不安や疑問を持った時、十分な話し合いを持つようにし、早期解決に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会等の場において、利用者や家族が意見、要望を表せるようにしている。月末に家族報告を設け意見、要望などを伺っている。 (外部評価) 毎月家族に送る便りは、普段の暮らしが良く分かる紙面となっている。毎月末には電話で状況報告を行っており、直接話す事で意見や要望を聞くことができる。年2回開かれる家族会では、家族だけで話し合う時間を設け、意見や要望を運営に反映させるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 常に職員の意見を聞くように定期的に話し合いの場を持ち、意見が反映されるように努めている。</p> <p>(外部評価) 代表者は、職員が楽しく仕事ができる環境が利用者にとって居心地良い環境づくりに繋がると考えている。職員は代表者や管理者に、いつでも意見や提案を言える関係が築けており、個別面談の機会もある。職員の親睦を兼ね慰安旅行が毎年実施されるなど、福利厚生も充実している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 労働意欲ややりがいを持てるよう、環境や条件の整備を行っている。また年1回程の個人面談を行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 定期的に研修の場を職場内でもつようにするなど、習熟度の向上、学びの機会を確保するようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域における同業者との交流を図り、意見を交換したり情報を共有するなど、サービス水準の向上に努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用者が話しやすい環境作りをした上でよく傾聴し安心して生活出来る様な関係づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族等の立場を考え、話を聞く事で、家族・利用者の思いを受け止め、信頼を築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族・利用者が何を考え、何を望んでいるのかを、段階に応じ考え支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できる事は何でも行ってもらい、個々の力を活かし業務に取り組んでいる。またその関係性を築けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思い、立場を考えながら支援している。また良い関係性が築けるよう、来所の少ない家族に対しても月末報告をする事で想いを汲み取っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 面会に制限を設けていない。近くのスーパーや馴染の美容室に行ったり、外出時には、思い出の場所や道など通り、住んでいた地域や昔話を聞くことで利用者の大切にしている場所や思い出を把握するように努めている。 (外部評価) 利用者にとって何が大切かを職員全員が理解しており、馴染みの人や場所を大切にしている。入居後の年数も長くなっている利用者も多く、事業所で築いた関係も継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の意思を確認しながら、自室にこもりがちにならないように声掛けを行ったり、利用者同士が話をする場を大切にしようという関係が持てるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後でもいつでも来所できるように声掛けを行っている。施設に移った場合では電話や訪問などで経過の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のケアの中で、極力声掛けに努め、一人一人の思いや意向を把握している。また気付いた点は申し送りノートに記入しカンファレンスで話し合う事でスタッフ全員に共有している。 (外部評価) 職員は、利用者の思いや意向を一人ひとりと向き合いながら把握するよう努めている。気づきや新しい発見は記録し、申し送りやカンファレンスで話し合いを行い、職員全員で共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の生活歴や生活環境をアセスメントし、今まで使用していた馴染の家具を設置する事で、入居前の環境に可能な限り近づけ安心して生活が送れるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1日の流れを生活記録に残し、日々の過ごし方や状況が、他の職員にも把握出来る様、情報の共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 普段から一人ひとりの様子を観察し、本人や生活の状況を把握できるように努めており、月2回のカンファレンスでスタッフが積極的に意見を出し合い本人や家族の意見や希望を取り入れ介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者一人ひとりに担当職員が決まっているが、気づきや情報は、記録やカンファレンス等で職員全員が共有し話し合っており、介護計画に活かしている。利用者や家族の意向は日々の関わりの中から把握している。計画の見直しは定期的に行うが、状態の変化に合わせてその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の入居者の様子を誰が読んでも分かるように記録するようにしている。スタッフ間で情報が共有でき、ケアの実践や介護計画の見直しで活かすことができるように個人記録に具体的に記入している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりを支えるためスタッフの気付いた事（出来る事、出来ない事、好きなこと等）を申し送りノートやカンファレンスで話し合い共有できるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 中学校の職場体験や近所の保育所の訪問等で交流したり、文化祭や地域行事に積極的に参加している。日々の買い物や月1回の外食先には地域の店を利用し、馴染みの関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居者本人、及び家族の同意を得て、週1回協力医から の往診を受けており、24時間体制で連携が取れてい る。必要や状況に応じて協力医に往診して頂けるよう 体制を整えている。個人的に本人の入居以前のかかり つけ医で受診できるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 入居前からのかかりつけ医や、事業所の協力医など希 望に応じて、自由に受診することができる。受診に関 しては家族の協力を得たり、職員が対応するなどして 適切な医療が受けれるようにしている。週1回、協力 医の往診があり、24時間体制で連携が取れるようにな っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日常的に体調等に変化があれば、看護職員に伝え、医 療機関への受診に繋げる事が出来るよう支援してい る。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した際には本人への面会をこまめに行い、安心出 来る様、また話を聞く等して本人と病院との退院の時 期を良く話し合いなるべく長期入院とならないように 支援している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 事業所、医療関係者、家族と十分に話し合い、全ての 情報を共有することにより、より良い支援がなされる ように努めている。</p> <p>(外部評価) 現在まで看取りの経験はないが、事業所として看取り を行う方針である。医療機関と24時間体制で連携 し、看取りに関する指針も整備している。更に職員に は協力医療機関から医者を講師として招き、勉強会を 開く等している。</p>	<p>重度化や看取りに関して、事業所の体制の確立や職員 のレベルアップに取り組んでいるが、現時点での達成 度などを見極め、より具体的に取り組む事を期待した い。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 地域で実施される救命講習に参加し。人工呼吸の方法やAED使用法を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練や、消防による消火器の使い方を学ぶことで災害時の対応を身につけている。実際の避難場所へ移動することで、どれ程の時間がかかるかを把握している。 (外部評価) 避難訓練は、消防署の立会いで様々な想定をしながら行われている。また、地域で行われる訓練にも参加している。運営推進会議でも議題に上げ訓練の報告や地域に協力要請したり、助言をもらい次に繋げている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 申し送り等、スタッフ間での連絡をする際は、居室番号で呼ぶようにしている。人生の大先輩として尊敬の念を持ち、プライドを傷つけない声かけをするように心がけている。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重しながら日々のケアに取り組んでいる。言葉使いや声の大きさ、タイミングなど細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「～しませんか?」「～どうですか?」など自己決定の出来る声かけをスタッフ全員意識できており、拒否があればその意見を尊重できる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 行事など時間に追われるのではなく、忙しい中でも一人ひとり会話をし、今何を望んでいるのか、何をしてほしいのかを考え、安心して1日を過ごしてもらえるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの個性、心地よさを考え、身だしなみを整えたりしている。職員の好みではなく、本人の好み希望にあわせた支援が来ている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 当番の職員が献立を考え、食事形態もその人に合わせ、食べにくい物でも食べれるよう工夫している。利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けをする事でコミュニケーションを取りながら食事の時間を楽しくするよう支援している。 (外部評価) 毎日の食材の買い物や調理、配膳、下膳等、利用者のできる範囲で職員と一緒にやっている。利用者の好みや食べたい物を聞き、献立に取り入れるようにしている。職員も一緒に食べながら会話を楽しんでいる。月1回外食の日を設けたり、季節や行事に合わせて趣きを変えて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の食事・水分の摂取量を記録しており、その日の摂取量がどれくらいかを把握する事が出来ている。薄味にする、魚の日を設けるなど栄養バランスを考えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行うことができています。声掛け、見守りまた介助により清潔を保つ事ができています。 就寝前は義歯をはずし洗浄する事で義歯の清潔保持もできています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握するために記録を行い、それを参考にしながら、さりげなく声掛けをトイレで排泄が行えるよう支援している。失敗時の声掛けや対応についても自尊心が傷つかないよう配慮を行っている。	
			(外部評価) 職員は利用者の排泄状況を記録し把握に努めている。時間や表情等で察知し、さりげなく声かけトイレ誘導を行っている。便秘傾向にある利用者には食事などを工夫し、自然にトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の状況チェック、排便がなければ申し送り、水分・食物繊維を多くとるなど出来る限り自然排便が出来るよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の希望を確認し強制はしない。その日の状況に応じて、清拭や足浴等を活用し清潔保持に努めている。気持ちよく入浴して頂けるように声掛けの方法やタイミングにも注意を払っている。	
			(外部評価) 入浴する日や時間、回数は利用者の希望や体調に応じて柔軟に対応している。入浴時は利用者と1対1でじっくり向き合う事ができるため、利用者の思いが聞けたり、新しい発見があるので職員はゆったりリラックスできるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 消灯時間は無く、個々の生活リズムで睡眠をとっている。2時間置きの見守りで睡眠状態を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方された薬は必ず確認し職員全員が効能や副作用について理解できるよう努めている。またすぐに分かるように個人のケースの中に保管しいつでも確認できるようになっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の手伝いが仕事をしているという張り合いになっている。また趣味の生け花や習字など楽しみや喜びが増すように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買物と一緒にいき、また月2回の外食・外出を設けている。 またそれ以外にも本人の希望で出かけたり、年1回バス旅行に出かけている。	
			(外部評価) 事業所として特に外出に力を入れており、毎日の食材等の買い物や、外食など日々取り組んでいる。年1回のバス旅行は、家族も利用者と一緒に参加してもらうようにしており恒例行事となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買物時にお小遣いを持参することで欲しい物が買えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家庭の事情により、こちらから連絡できない場合を除いて入居者の方から訴えがあれば連絡できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者がくつろいでいる空間でスタッフ間の会話や物音などで不快感を与えない様配慮している。おやつ時食事時などはテレビを消しBGMを流しリラックス出来るよう支援している。また壁には季節を感じられる掲示物や生け花などを飾っている。</p> <p>(外部評価) 共用スペースには季節の飾りや花、利用者の製作した作品等が飾られ、温かさや季節感が感じられる。利用者はリビングで過ごす時間が多く、事業所で飼っている犬と共にゆったりと思いいに過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 気の合う利用者はフロアに関係なく移動出来る様になっている。また一人の時間も大切にしているので行動の制限を行わず見守りを中心に行っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は本人や家族と相談し、使い慣れたタンスやテーブル椅子などの家具等を設置し入居者一人一人が落ち着いて生活できるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 家族の協力を得て、使い慣れた家具や調度品を持ち込んだり、写真や作品を飾ったりと利用者が居心地良く過ごせるよう配慮がされた居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ダイニング、リビングに視界を遮る物がなく常に見守り出来る空間になっている。利用者の方には洗濯、食事準備など出来ることをスタッフと共に行っており自立した生活出来るよう支援している。</p>	